

# 広報九州



平成24年6月10日

(2012年)

No 1685

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



「森林の市」出展で綾プロジェクトをPRする九州森林管理局のスタッフ＝東京都日比谷公園

## 最後の「森林の市」 綾プロジェクトをPR

平成24年5月12日から13日にかけて、平成24年度「森林の市」

が林野庁及び東京都、国土緑化推進機構などの主催で、東京都千代田区の「日比谷公園」において、森林・林業に関連する57団体が出展し開催されました。

九州森林管理局は、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議（5者の協働・宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会の一員として出展に参加し、照葉樹林の保護や復元への国有林の取組や綾の照葉樹林プロジェクトとしての活動をPRしました。



モックン作りに挑戦する参加者

出展に訪れた子供連れの家族やカップルに好評で、終了間際まで来場者が途絶えませんでした。また、「森林の市」前日の5月11日には、前局長の沖修司国有林野部長を表敬訪問し綾の照葉樹林プロジェクトの取り組みを報告するとともに意見交換を行いました。

(担当：計画課)

## 請負事業体等安委会を開催

【西都児湯森林管理署】当署事業実行中の請負事業体の関係者33人が参加し、請負事業体等安全大会を開催しました。当署から、昨年度発生した国有林野事業における重大災害の事例を踏まえた類似災害防止対策や災害防止に向けた留意事項などを説明。請負事業体2社から、自社の安全に対する取り組み内容について発表していただき、大変貴重な話を聞くことができました。最後に参加者全員で無事故・無災害を誓い有意義な安全大会となりました。



安委会へ参加した事業体等のみなさん(西都児湯)

# 自署のきこ

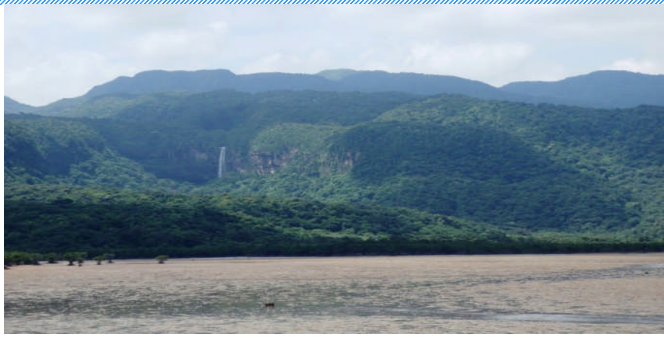


沖縄森林管理署

租納森林事務所

森林官 濱田 祥吾

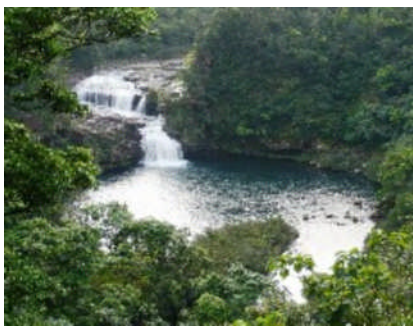
西表島の主要な山岳として、島の北東部に位置する最高峰の古見岳（469・7㍎）をはじめ、波照間森（447・4㍎）、テドウ山（441・5㍎）など400㍎級の山々があります。今回は西表島の北側に位置し、船浦湾の南にあるテドウ山を紹介いたします。テドウ山への登山道は主に2つのルートがあります。



船浦湾から望むテドウ山(後方中央)とピナイサーラ=沖縄

# 西表島3番目の高峰『テドウ山』441・5㍎

一般的なルートは、船浦湾へ注ぐマレー川の竹富町営水源地区ポンプ小屋からのルートになります。そこからピナイサーラ滝上への道を進み、途中の分岐点より右へ入ると、本格的なテドウ登山道となります。「ピナイサーラ」とは「ひげのような」という意味で、落差約55㍎の沖縄県最大の垂直な滝で、滝上からは、船浦湾を取り囲むマンングロープ林や美しい珊瑚礁の海を望むことができます。



浦内川上流に位置するマリウドウの滝

西表島の林内は、湿度が高く、ツル性の植物が幹に複雑に巻き付き、ヒカゲヘゴや着生植物が木に着床した姿はジャングルのようです。登山道は険しいところ



「オキナワウラジロガン」の花

この険しいテドウ山を3年に1度、遠足として登る竹富町立

船浦中学校の行事があります。当署でも森林環境教育の一環として支援をしています。中学生たちはもう一つのルート、浦内川上流の軍艦



「サキシマキノボリトカゲ」

岩より登山を行い、「日本の滝百選」に選ばれた「マリウドウの滝」や「カンピレーの滝」などで休息を取りながら、ロープを張った難所をみんなで励ましあいながら山頂をめざします。

山頂では全員をろって記念撮影と登頂記念のプレートを設置し、帰りは遠くに見える母校を眺めながら、マレー川水源地向かい下山します。

近年、西表島の登山では遭難が多発しています。また、サキシマハブやスズメバチなど危険な生き物もいますので、単独での登山は避け、入林する際の届出は関係機関へしっかり出すようお願いいたします。

## 桜島治山事業地元説明会を開催

【鹿児島森林管理署】5月10日

日地元自治公民館長や市の関係者約30人が参加し、平成23年度の実施状況と平成24年度の実施計画について桜島地区民有林直轄治山事業地元説明会を今年度の施工予定地において開きました。施工予定地では、治山事業の重要性・有効性を確認し、参加者からは、「近頃は土石流災害もなく感謝している。噴火に伴う危険と施工上の危険で大変な仕事だろう」「治山事業の重要性がわかった」などの意見があり、先人たちの苦労が成果として認められ、治山事業の重要性を認識させられた一日でした。



施工予定地で事業の説明を聞く関係者のみなさん=鹿児島

## 情報労連福岡県協議会が植樹

【福岡森林管理署】海の中道海浜公園玄関口に隣接する中裏付国有林で、情報労連福岡県協議会組合員・家族らによる防風保安林再生に向けた植樹が行われ、組合員・家族ら120人が抵抗性黒マツのポット苗500本を植え付けました。情報労連は、今回の植樹を環境保護活動に理解を深め社会貢献を目的とした「情報労連全国環境一斉行動」として行ったものです。これまでも道路や公園の清掃活動に取り組んでおり、今後5年間継続していく予定であり、署では、国民参加による森林整備・保全の取組みに積極的に協力していく考えです。



植樹を終え参加者全員で記念撮影＝福岡

## 小学生が植樹を体験

【大分西部森林管理署】宇佐市安心院町の国有林で、宇佐市立深見小学校福貴野分校の児童5人が植樹を体験。日頃から家の手伝いで培った鋏使いも堂に入ったものでヤマザクラとヤマモミジを植栽。その後、シカ被害防止袋を設置し作業を終りました。児童からは「きつかったけど楽しかった。鹿に食べられないといいな」と心配する声もあり、苗木の成長を見守りながら、苗木に負けないように大きく成長しようと誓って終了しました。



植樹体験を行った5人の児童＝大分西部

## 民有林行政の勉強会を開催

【宮崎森林管理署都城支署】人材育成の取組として宮崎県の准フォレストアドバイザー職員を講師に宮崎県の森林・林業・木材産業の取組、市町村森林整備計画、森林経営計画の概要、森林環境保全直接支援事業など民有林行政についての勉強会を開きました。小規模森林所有者の集約化や民有林行政における苦労話も聞くことができ、職員からは活発な意見や質問があり、民・国連携や人材育成強化の重要性を再認識する勉強会となりました。



民有林行政勉強会へ参加した支署のみなさん＝都城

## 間伐紙の地産地消で地域再生へ

第13回グリーン購入大賞で環境大臣賞受賞



佐賀県佐賀市役所  
総務部  
契約検査課調達係長  
山口和海さん

の適正な維持管理が行き届かないのが課題となっていました。また、南部には有明海を抱え、その環境維持のためにも、山間部の公益的な水源涵養機能を充実させる必要があります。

グリーン購入大賞で、最高位の環境大臣賞を受賞しました。佐賀市は現在、総面積の四割以上を森林が占めていますが、木材価格の低迷や過疎化・林業従事者の高齢化のため、間伐等

こうした中で、佐賀市は官民共同で設立された「国民が支える森林づくり運動」推進協議会が開発したコピー用紙「木になる紙」の導入を開始しました。このコピー用紙には九州産の間伐材が含まれており、売上金の一部（A41箱で約50円）が森林所有者へ還元されています。

佐賀市は全部者二斉導入により、山元の森林整備の充実につながることを目標に始めましたが、近隣の自治体にも好影響を与えており、今では佐賀県内の七割近くの自治体で導入が進んでいます。

森林資源の有効活用として買



へも期待される点で高い評価を受け、佐賀市は昨年10月のグリーン購入ネットワーク(GPN)主催の第13回

グリーン購入大賞で、最高位の環境大臣賞を受賞しました。佐賀市は現在、総面積の四割以上を森林が占めていますが、木材価格の低迷や過疎化・林業従事者の高齢化のため、間伐等

こうした中で、佐賀市は官民共同で設立された「国民が支える森林づくり運動」推進協議会が開発したコピー用紙「木になる紙」の導入を開始しました。このコピー用紙には九州産の間伐材が含まれており、売上金の一部（A41箱で約50円）が森林所有者へ還元されています。

佐賀市は全部者二斉導入により、山元の森林整備の充実につながることを目標に始めましたが、近隣の自治体にも好影響を与えており、今では佐賀県内の七割近くの自治体で導入が進んでいます。

森林資源の有効活用として買

## 不法投棄ゴミを合同回収

【大分西部森林管理署】筑後川水系の重要な水源でもある中津江森林事務所管内は、福岡、熊本県と接し、年間を通じ車両や入込者が多く、ゴミの不法投棄が絶えない場所です。今回、日田市に呼びかけ合同によるゴミ拾いを実施しました。ユニック車や20人を超える作業員を動員しての作業となり、回収したゴミは古タイヤ、電化製品、ビン、空き缶など約4.5トンのほりましました。今後は、投棄防止の表示板設置や巡視強化に重点をおきた

いと考えています。



不法投棄ゴミを回収する参加者の皆さん(大分西部)

## ボランティアで林道整備

【宮崎南部森林管理署】5月24日、管内の林道5路線で熊本林業土木協会宮崎支部によるボランティア作業が行われ、協会員や当署職員約40人が参加し林道整備を行いました。協会から重機の提供もあり、整備が困難な横断溝の清掃や木柵工の施工など専門的な作業をしてもらいました。このボランティア活動により、各路線とも見違えるようにきれいになり、これから梅雨時期を迎えるに当たり、林道の維持管理に大いに役立つもの

と期待しています。



重機を使い林道整備するボランティアのみなさん(宮崎南部)



奥村 一美さん



私達が住んでいる地球は、今、温暖化などにより、日々、痛み始めている。生態系は大きく変化し、水不足や人口問題、環境汚染、食糧危機など、バランスを崩し始めている。このまま何もせずに、毎日を

過ごしていったら数年後、数十年後には、空気や水はすっかり汚染され、水は貴重なものになり、汚染された食物により私達は重い病気に悩むだろう。そんな悲しい現実を迎えないため、私達は何ができるだろうか？ たくさんの人達のほんのわずかな気づきと行動で、私達地球人は、何かを変えられる事ができるかも知れないし、もしかして間に合うかも知れない。

## 国有林モニターを通してやりたい事

①「森の塾」の開講  
今、国有林モニターというポジションを通して私がやってみたい事をご提案いたします。

②「森の病院」の開院  
薬草や漢方を学び、東洋医学を学ぶ。森林療法を通して気の流れや心の健康を学ぶ。

③「木を植えて育てよう」  
コーヒーの木、ゴムの木など、

以上、4つのテーマに、皆さんと取り組む事が出来たら幸いです。自然と水と新鮮な食べ物に恵まれ、安心安全な所に住める私達は、本当に幸せだと思います。

(熊本県熊本市在住)

子供から大人まで、皆で森や自然を学ぶ塾。森の中で勉強したり、自然を創って行く学校。この学校を通して、心や生物多様性などを学ぶ。たとえば、農業、草木染め、リース作り、木

④「森の恵みに感謝しよう」  
ワラビ、山菜採り、タケノコ掘り、キノコ狩りなど自然の恵みに感謝する事の大切さを学ぶプロジェクト。



三角定規で木の高さを測る児童ら(都城)

【宮崎森林管理署都城支署】当署管内遅霧国有林において、三股町立三股西小学校4年生に「樹木調べ・丸太切り・測樹体験」の森林教室を行いました。「樹木調べ」では、広葉樹の特徴の違いを、「丸太切り体験」では、懸命に鋸を曳き丸太を切り、「測樹体験」では、三角定規を用いて杉の木の高さを測りました。この森林教室は、「総合的な学習」の一環として行っているもので、児童への、森林や自然に関する体験を通じた学習の課題作りを目的としているものです。今後この活動には協力をを行い、森林の役割・自然との関わりについて知識をより深めてもらえるよう取り組んでいくこととしています。

# 採材検討会を開催 ～合板工場と意見交換～

【屋久島森林管理署】屋久島の国有林及び民有林から搬出される間伐材は、大半が熊本県水俣市にある合板工場へ出荷されていることから、適切な寸法や採材方法などについて、島内の林業事業体と合板工場および事業発注者の認識を統一することを目的とした採材検討会を、愛子嶽国有林の間伐実施箇所にて開きました。



採材方法を検討する参加者のみなさん＝屋久島

体、そして水俣市の合板会社から約50人余りが参加しました。検討会では、合板会社の担当者から工場における製材工程についてプレゼンがあり、原木の品質が悪いと機械のトラブルにより、多くの時間と労力を費やさなければならぬ状況の説明がありました。

次に、間伐した材の玉切りを行い、問題となる原木を間近に見ながら変形木や欠点のカット方法および採寸基準について、意見を交わし、特に、腐れがある材は機械が原木に食い込み製材できなくなるため、かなり細かい腐れでも取り除かなければならない現状が理解できました。最後に、全体を通しての意見交換が行われ、欠点を避けるために切り落とし材の活用方法など、いくつかの検討課題が挙げられました。

屋久島の場合、合板工場が島外にあるため、現場と工場の情報交換が難しい現状において、今回の検討会はお互いの情報交換の場として有意義なものとなりました。

# 功績を評価され表彰 部外協力者にも感謝状贈呈

九州森林管理局において「平成23年度部外協力者に対する感謝状贈呈式」が行われ、功績のあった熊本林業土木協会会長永野征四郎さん、九州国有林採石協会会長神村幸彦さんに平之山俊作局長より感謝状が贈呈されました。

永野征四郎さんは、昭和56年から現在まで31年間の多年にわたり熊本林業土木協会の役員を務め、豊富な経験、高い識見及び功績が評価され今回の感謝状が贈呈されました。



再生可能エネルギーの全量買取制度が7月から始まる。分散型エネルギー源の一つとして木質バイオマスは期待されており、木質バイオマスの買取価格については、林地残材などの未利用木材はkw時当たり33.6円に設定されるようだ。紙パルプ等の既存産業に影響を与えないよう、未利用木材の優先活用を促す仕組みとなっている。この制度により林地残材などの有効利用が進めば森林整備とともに、林業、木材産業へのさまざまな恩恵がもたらされる。九州内においても、既に

# 再生エネのサプライチェーンを構築

お金を還元することが可能と読める。5kwの発電に必要な原料は、年当たり14万m<sup>3</sup>。仮に佐賀県内に未利用木材を原料とした木質バイオマス発電施設を設置しようとする、現在の佐賀県の素材生産量(11万m<sup>3</sup>)を上回る未利用木材を持続的に供給する体制が必要であり、ハードルは高い。

再生エネルギーによる発電を促進するためには、低コスト化のみならず、送電線の増強、スマートグリッドの整備、エネルギーマネジメントシステムの構築など多くの課題がある。いよいよ、九州一の地主であり山主である九州森林管理局が九州内の民国の森林資源と既高圧送電線網を活用し、木材供給から木質バイオマス発電、更には再生可能エネルギーの地産地消を含めたサプライチェーンを構築していくことが求められる時代が来た。

佐賀森林管理署長

大倉 孝行



感謝状を授与され喜びの記念撮影

状贈呈となったものです。  
(担当川総務課)

# 森林保護員が出発式

【宮崎森林管理署都城支署】

高山植物盗採防止の巡視や自然保護の取組、登山者へのマナー啓発の呼びかけを行う森林保護員（グリーンサポーター・スタッフ）の任命式と出発式をえびの市のえびのエコミュージアムセンターで行いました。出発式では、工藤孝支署長から3名の森林保護員に、人事異動通知書および雇用通知書を交付。巡視にあたっての注意事項と安全指導を行い巡視に向け出発しました。これから本格的な行楽シーズンの向け霧島山系の森林保護員による取り組みが期待されます。



工藤孝支署長から雇用通知書を受ける森林保護員のみなさん（都城）

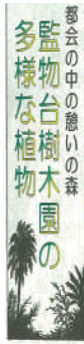
# 安全週間

平成24年7月1日～7日  
準備期間：平成24年6月1日～30日

平成24年度全国安全週間が7月1日から7月7日まで全国一斉に行われます。当局においてもこの趣旨に沿い、労働災害の未然防止を図るため「平成24年度九州森林管理局安全週間実施要領」を定め、取り組んでいるところです。  
なお、6月は準備期間となっています。各署等においても実施要領に基づいた具体的な実施計画を樹立の上、積極的な展開をお願いします。

## スローガン

安全は  
一歩先読む 余裕から  
心と時間に ゆとりを持って



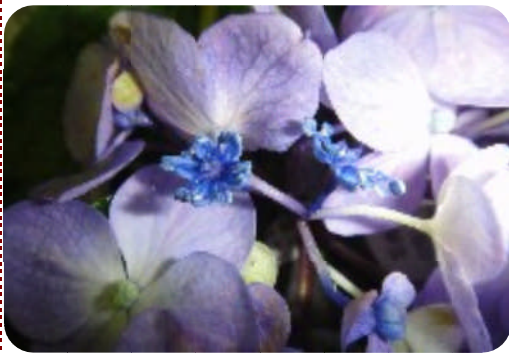
## 57 アジサイ (ユキノシタ科)

アジサイは日本に自生しているガクアジサイから作られた園芸品種で、庭園に栽培されている落葉低木です。葉は単葉の基本形をしていますので葉の各部の名前を覚えるのに参考になります。

アジサイは大きな円形の花を咲かせますが、花弁に見えるのは全て装飾花といひ、ガク（萼）が花びらのように大きく変化したのです。アジサイ類の装飾花はガクが全て変化しているのですが、スイカズラ科のヤブデマリ、ムシカリは花弁が変化した装飾花です。

アジサイは酸性土壌では青色に、アルカリ性土壌では赤色に（リストマス試験紙と反対）花の色が変わると云われていますが、全てがそのようにはならないようです。アジサイの花（両生花）はほとんど見ることができませんが、たまには花が咲き、種子ができることもあるそうです。あじさいの種子はとても珍しいので、観察できたら写真に納めましょう。

美しい花には毒があるといわれるように、アジサイも例外ではなく毒草です。誤って口にとけいれん（痙攣）、麻痺、



過呼吸、ふらつきなどの症状が出るそうです。



4月1日付けで広報を担当することになりましたのでよろしくお願ひします。▲6月4日ごろ九州南部が梅雨入りしたと気象庁の発表があった。シメジメしたうっとうしい季節が始まる。  
▲原発事故を受けた昨年引き続き電力不足が予想されることから、官公庁ではクールビズがスタートとなった。環境省ではノーネクタイ、軽装のアロハシャツやポロシャツを勤務中に着ることを容認し、職場の冷房温度を高めにして節電する「スーパークールビズ」が6月1日から始まった。九州では平成22年比10%以上の節電目標を要請されることである。▲数年前から、「緑のカーテン」という言葉を耳にする。窓の外にツル性の植物を這わせ日差しを遮り、室内温度を抑制することによって、体感温度が2〜3度違うといわれ、省エネ効果が期待される。  
▲森林には緑のカーテン以上に森林セラピーが生み出す健康効果など様々な効果があるといわれている。休日には、節電対策を兼ねて森林浴に心と体をリフレッシュしに出かけてはいかがですか。（山）